

第2回調査改革部会（9月1日開催）における  
持続可能な国土の創造小委員会に関連する主な発言

- ・ 自然災害であったり多自然居住であったりそれぞれが非常に大きいテーマであり、情報整理で手一杯といった状況も若干みられる。
- ・ その中で、今後の国土計画の新しい方向ということで、3つ大事と思われるところを紹介したい。第1点は国土計画全体を循環型という視点からどう導いていったらいいかという方向性を出したい。たとえば土地利用だと用途別に計画の内容がつくられているが、そうではなくて、都市、農村、山林を含めた循環型国土計画という観点の構成をしっかりと出したい。
- ・ 第2点は、農山村の振興。特に山村として維持していくのが難しいというような限界集落が多々現れてきている、あるいはこれから現れるなかで、農山村は居住の豊かさを表す地域として再定義し、いろいろな人の生活の質の中で、農山村の問題をきっちり考えていきたい。
- ・ 第3点は、美しい国土ということを国土計画の中でしっかりと考えていきたい。国交省が「美しい国づくり政策大綱」を出したし、美しいということが主観的な内容でなく、まさに国土が適切に管理されていることの現れとして、美しい国土をつくっていくための具体的な指標の設定といったことも含めて、美しい国土づくりを国土計画の一つの大きなテーマとして検討していきたい。
- ・ 農山村の価値の再点検ということを言われていたが、全く同感。そういうなかで、今年も水俣市等を中心にして大きな土砂災害があり貴重な人命が失われた。自然災害に強い国土づくりということがでているなかで、安全な国土づくりをこれからも進めてほしい。たとえば砂防ダム等災害を食い止めるための投資について、そこに人が住んでいるから被害がでるのであり、安全という視点を重視するならば、集落の集団移転ということも十分ありえる。土地への執着は強いと思うが、人命は何よりも重い。人口の減少に伴う集落の崩壊という話もあったが、人口が減少していてもそこが安全な土地であるならいろいろな方法により住み続けられると思うが、多少の発想の転換が必要になってくるのではないか。国民の生命を守るのが政治や行政にとって優先度の高い課題。

- 1970年代より持続的発展ということが言われているが、日本の場合、実態は逆の方向を向いてきており、この辺を次の国土計画でどう考えるか。一つは土地利用について、なぜ多くの自然がこれまで失われてきたのか分析してほしい。これがないと次の計画を出しようがない。自然と共同したまち、農村、山とはどうあるべきか、現代世代の利益だけで使っているところが非常に多いがそれをどう改善するか。あと一つの要素は産業であり、第一次産業（特に農林漁業）、第二次産業（製造業、建設業）、第三次産業（輸入等を含めた流通）、どれをとっても持続性のない動きをしているが、それぞれなぜそうなってきたのか、二酸化炭素や膨大なゴミを出して環境問題になっていることを改善できないでいるのはどこに問題があるのか、わかりやすく国民に出してもらわないと次の議論にいけない。それぞれ産業ごとに持続的発展が出来なかった理由について突っ込んだ議論をしてほしい。エコロジカルフットプリントをもっと突っ込んで国民にわかりやすく説明してほしい。
- 海洋、沿岸域を検討していただいているのはありがたい。現在、国交省で大陸棚調査に多額の予算を要求するということが結構なのだが、資源を有効活用するために制度的・技術的な問題がある。一つは海底の利用について誰が責任を持ってきちんとするのか議論してほしい。メタンハイドレードは先の話だが、たとえばヨーロッパで風力発電の海上展開という状況がでてきているが、日本でそれをやる場合、誰が利害調整を責任もってやるのか。ぜひ大きな方向性を出してもらって、制度の改善をしてほしい。そうしないと大陸棚で縄張り争いが起きるのではないか。
- これからの持続可能な国土を創造する上で、どういうレベルで政策の基本方向を考えているのか。
- 森林経営について、京都議定書にも森林経営によるCO2削減分をカウントすると書かれているので、そういうことも言及したほうがいいのではないか。
- 持続可能といったとき、必ず生態系の話で有機物循環の話になるが、自動車、家電等鉱物性資源循環の話がもう一つの柱として循環型国土の軸になると思うので、明確に出してほしい。
- 印象としてやや弱い。出揃っている論点が繰り返されているという感じがする。農山村の今後のあり方を考える、あるいは制度、施策を組み替えるとすれば、国民の理解と共感がぜひ必要であり、重い問題を投げかけるような発想の整理をしてほしい。農山村がいるのかいないのか、農山村は誰のものかといった基本的な問いかけが必要とされている。
- 農山村振興は水循環にとって重要。たとえば、現在の用排水施設の改良が水環

境について問題を起こしているかもしれない。

- ・ 都市化による水需要の増大あるいは保水能力の減少、広域的な水源から水を取水することに伴う問題点を書いたらどうか。
- ・ 水については、ためる、ゆっくり流す、また使うといった展開が望ましいのではないか。これはエネルギーその他にも適用できるのではないか。
- ・ 集落の集団移転にしても、物質循環にしても議論していないわけではない。今回の資料は総花的な内容となっている。今後の検討の中で総花的なことを全部検討して新しい方向を出すということは現実的でないし求められてもいないと思うので、今日のご意見を参考にしながら、委員長とも相談の上議論をすすめていきたい。